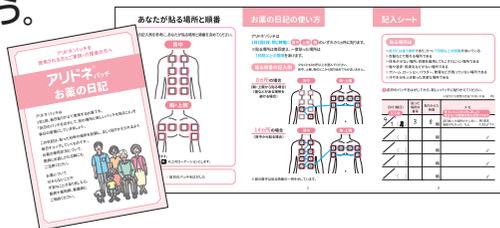


～毎日忘れずに貼るために～

「アリドネ®パッチお薬の日記」を使って、貼った日時と場所を記録しておきましょう。

貼る前チェックと、貼る場所の確認ができます。



包装袋も活用できます。

貼る日時の記入欄、貼る場所のチェックボックスがあり、あらかじめ貼る予定の日時、場所を書きとめておくことができます。



【医療機関名】

【担当する医師】

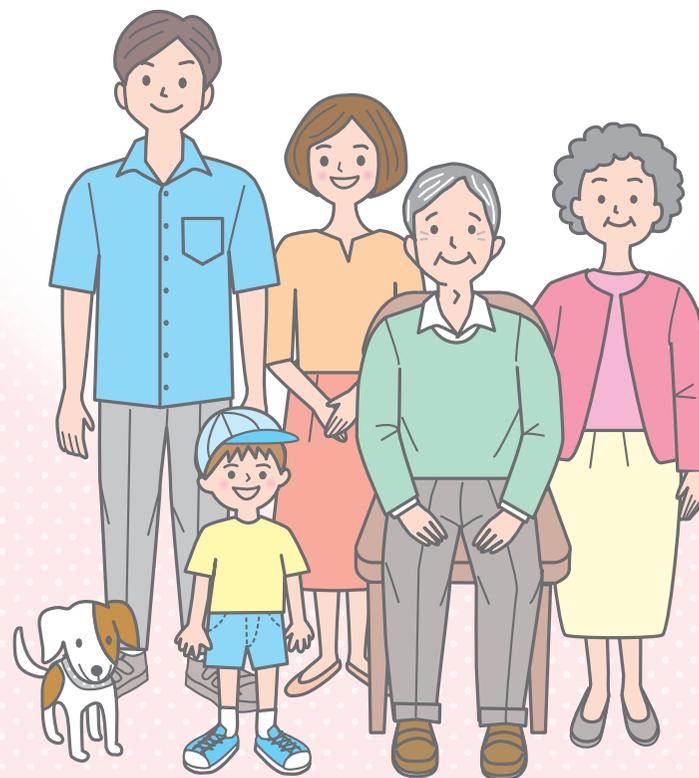
【緊急連絡先】

製造販売元
帝國製薬株式会社

販売元
Kowa 興和株式会社

アリドネ®パッチを
使用される方とご家族・介護者の方へ

アリドネ®パッチの 使い方ガイド



監修：香川大学医学部 精神神経医学講座 教授 中村 祐 先生

目次

アリドネ®パッチについて 1~5

- アリドネ®パッチとは 1
- アリドネ®パッチの特徴 2
- アリドネ®パッチの種類 4

アリドネ®パッチの使い方 6~12

- はじめに 6
- 貼る前の準備 7
- アリドネ®パッチの貼り方 8
- 使用上の注意点 10
- アリドネ®パッチの捨て方 12
- アリドネ®パッチの保管方法 12

アリドネ®パッチの副作用 13

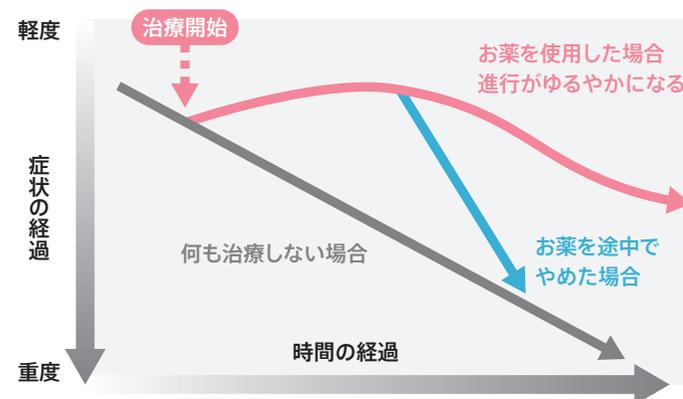
皮膚症状を予防するために 14~17

- 皮膚症状を予防するためのポイント 14
- 保湿剤によるスキンケア 16

アリドネ®パッチについて

アリドネ®パッチとは

アリドネ®パッチは、アルツハイマー型認知症で見られる記憶障害などの症状の進行を遅らせるお薬です。
お薬を継続して使用することで、何も治療しない場合より、症状の進行を遅らせると考えられています。



出典:「かかりつけ医および一般病院の医療従事者の認知症対応力向上研修に関する研究事業報告書」
(厚生労働省) 49頁(診断と治療-37)を加工して作成

症状に変化が見られなくとも、実際には症状の進行を遅らせていると考えられます。

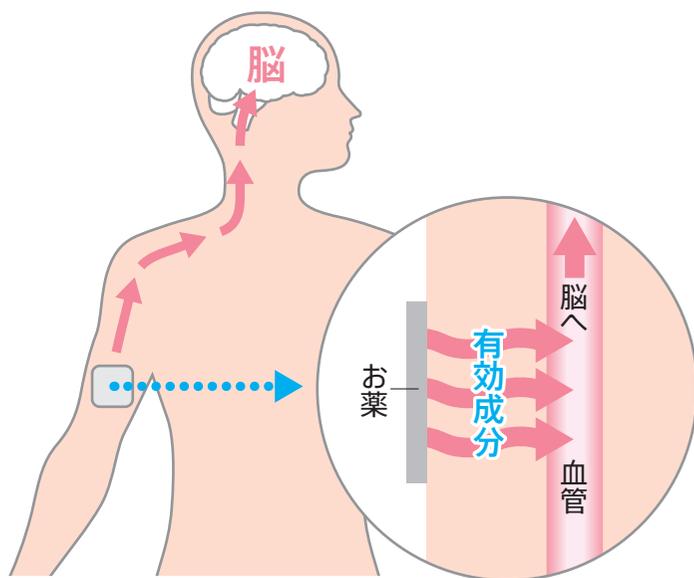
アリドネ®パッチはアルツハイマー型認知症に対して使われるお薬です。
レビー小体型認知症の適応はありません。

アルドネ®パッチについて

アルドネ®パッチの特徴

- 皮膚に貼るお薬です。

このお薬は、皮膚から有効成分が吸収される貼り薬（パッチ剤）です。



皮膚に貼ると少しずつお薬の成分が体内に吸収されます。体内に入った有効成分は、血液の流れに乗って脳で働きます。

2

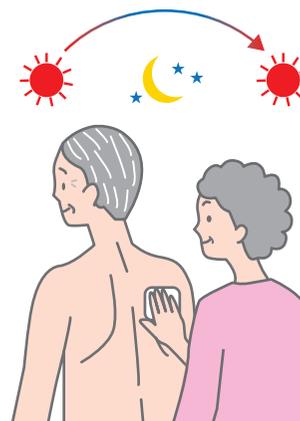
- 貼り薬なので、飲み薬の服用が難しい方でも使用できます。



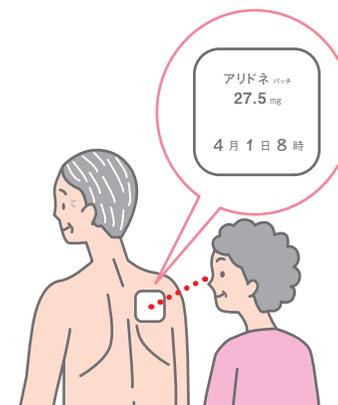
- お薬に、貼る日付と時間を記入できます。



- 1日1回、24時間ごとに貼りかえます。



- お薬の使用状況を目で見て確認できます。



3

アリドネ®パッチについて

アリドネ®パッチの種類

アリドネ®パッチには2種類の大きさがあります。
サイズが大きいほうは、
含まれているお薬の量が多くなっています。

● 1日1回1枚の貼り薬(パッチ剤)です。

● お薬の用量は、症状に合わせて設定されています。
医師の指示通りに貼ってください。

● 必要に応じて医師の指示のもと、
増量することがあります。

アリドネ®パッチ 27.5mg

包装袋



パッチ(表)



パッチ(裏)

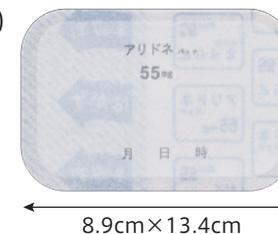


アリドネ®パッチ 55mg

包装袋



パッチ(表)



パッチ(裏)



* 上記の画像はイメージです。実際の大きさと異なりますので、ご注意ください。

アリドネ®パッチの使い方

医師や薬剤師の指示に従ってください。

はじめに

●貼る時間を決めます

毎日1回1枚、同じ時間にお薬を貼ります。

貼りかえは、お風呂やシャワーの後などにするとよいでしょう。



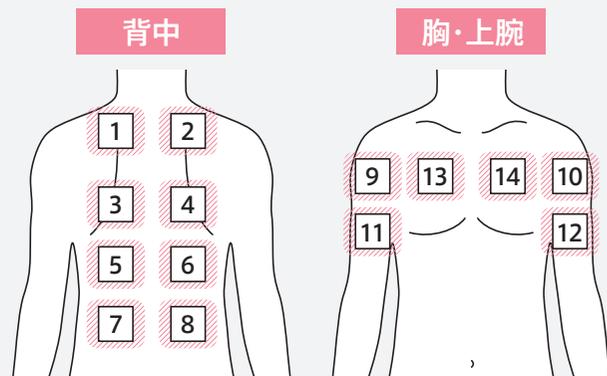
●貼る場所を決めます

背中、上腕、胸のいずれか1ヵ所に貼ります。

貼る場所は毎回変え、同じ場所に続けて貼らないでください。

一度貼った場所には7日間以上の間隔をあけてから貼ります。

貼る順番の一例です。



□の中の数字はお薬を貼る順番を示しています。

14まで終わったら、再び1に戻って同じ順番を繰り返します。

イラストのように貼る順番を決めて毎日貼っていくと、一度貼った場所へもう一度貼るまで、7日間以上の間隔をあけることができます。

貼る場所の注意

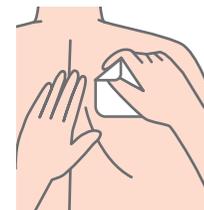
- 直射日光があたらないよう、衣服などで隠れる場所を選んでください。
- 清潔で乾燥した場所、体毛が少ない場所、衣服を着用してもこすれにくい場所に貼ってください。
- 傷や湿疹・皮膚炎などがある場所には貼らないでください。
- クリーム、ローション、パウダー、軟膏などをぬったばかりの場所ははがれやすいため、貼らないでください。

貼る前の準備

●前日のお薬をはがします。

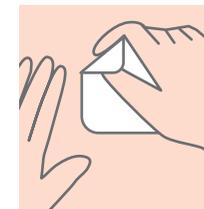
新しいお薬を貼る前に、必ず前日のお薬をはがしてください。

(一度に2日分を貼らないでください)



貼りかえるときの注意

- 前日のお薬は、皮膚を傷つけないよう、ゆっくりとやさしくはがしてください。(一気にはがさないようにしてください)
- お薬をはがした後、皮膚に粘着成分が残った場合、少量のベビーオイルやぬらしたタオルなどでやさしく取り除いてください。



- 貼る場所を乾いたタオルなどでふいて、清潔にします。水分や汗をよく取り除いてください。



アリドネ®パッチの使い方

アリドネ®パッチの貼り方

① 包装袋からお薬を取り出す

内部のパッチを傷つけないように、包装袋の2カ所を番号順(①→②)に手で切り取り、中のパッチを取り出してください。



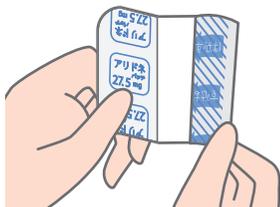
② 日時を記入する

パッチ表面に、貼る日付と時間をペン・ボールペンなどで記入してください。(衣服などにインクが付く場合があります。水性ペンは乾きが遅いのでご注意ください)



③ 透明フィルムを半分はがす

パッチには透明フィルムがついています。粘着面に触れないように、透明フィルムの半分をはがしてください。



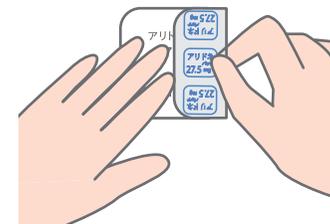
※一度山折りすると、透明フィルムがはがれやすくなります。

④ お薬を貼る

粘着面を背中、上腕、胸のいずれかに押しあて、半分だけパッチを貼ってください。

貼った部分を押さえて、残りの透明フィルムをはがしながら貼ってください。

(お薬は、ハサミなどで切って使用しないでください)



⑤ お薬を押さえる

パッチがしっかりとくっつくまで、手のひらで押さえてください。



⑥ 手を洗う

パッチを貼り終わったら、手を流水で洗ってください。

手にお薬がついていることもあるため、手を洗う前に、目や口に触れないようにしてください。



アリドネ®パッチの使い方

使用上の注意点

貼っている間の注意

●直射日光を避ける

お薬を貼っている間とはがした後の3週間は、貼った場所を衣服でおおうなどして、直射日光があたらないようにしてください。



●貼った場所を温めない

お薬を貼った場所が、あんか、こたつ、電気毛布、カイロ、湯たんぼ、サウナなどで熱くならないようにしてください。



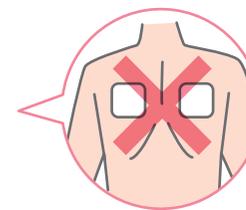
●車の運転や危険を伴う機械の操作はしない



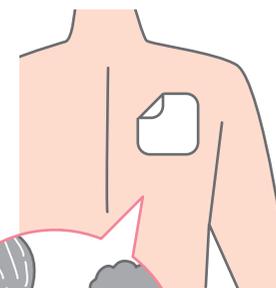
貼り忘れたとき、はがれたときの注意

- 貼り忘れに気づいたときは、気づいた時点で新しいお薬を貼ってください。
次からはいつもと同じ時間に貼りかえてください。

貼り忘れに気づいても**2日分以上を一度に貼ってはいけません。**



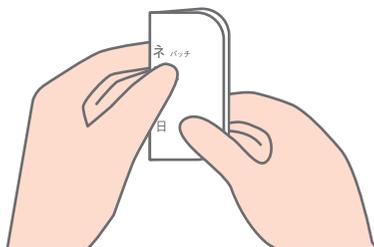
- はがれそうなときは、再度手で押さえて貼ってください。
完全にはがれたときは、新しいお薬に貼りかえ、はがれたお薬は捨ててください。
次からはいつもと同じ時間に貼りかえてください。



アリドネ®パッチの使い方

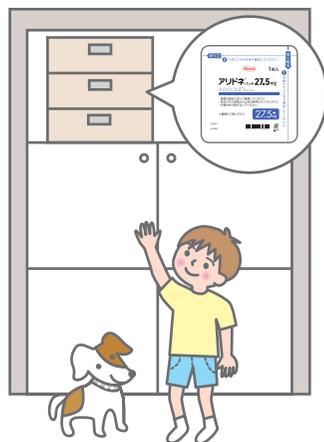
アリドネ®パッチの捨て方

使用済みのお薬には成分が残っているため、粘着面を内側にして折りたたみ、子どもの目や手の届かないところに捨ててください。



アリドネ®パッチの保管方法

- 子どもの目や手の届かないところで、高温を避けて保管してください。
- お薬は折り曲げないでください。
- 包装袋は貼る直前まで開けないでください。
- お薬を家族や他の人にゆずってはいけません。



アリドネ®パッチの副作用

主な副作用として、皮膚症状や消化器症状が報告されています。

ご注意ください副作用

皮膚症状

お薬を貼った場所がかゆくなる、赤くなるなど



消化器症状

下痢、食欲不振、吐き気、嘔吐など



お薬を使用して気になる症状があらわれた場合は、
医師または薬剤師に相談してください。

皮膚症状を予防するために

皮膚症状を予防するためのポイント

アリドネ®パッチによる
皮膚症状(かゆみ、赤みなど)を軽減、予防するため、
次の点に注意してください。



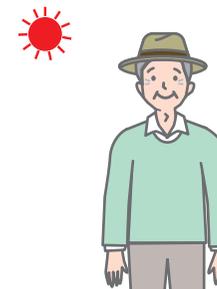
お薬は前日とは違う場所に
貼り、7日間以上の間隔を
あけます。



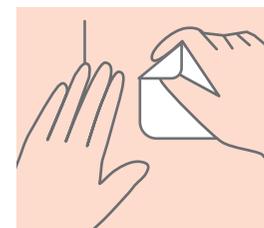
傷や湿疹・皮膚炎などが
ない場所に貼ります。



お薬を貼った場所は、
直射日光が当たらないよう、
衣服などでおおいます。



お薬をはがすときは、
ゆっくりとやさしく
はがします。



新しいお薬に貼りかえ後、
皮膚を保湿します。

(貼った場所を避けて、ぬります。)



皮膚症状を予防するために

保湿剤によるスキンケア

皮膚が乾燥していると、かゆみや赤みなどの皮膚症状があらわれやすくなります。

皮膚症状を軽減し、予防するには、保湿剤(クリーム、ローション、軟膏など)で皮膚の乾燥を防ぎ、刺激に強い皮膚を保つことが大切です。

日常的に皮膚のケアをおこなっていきましょう。

皮膚が乾燥しやすい方、皮脂の分泌が少ないご高齢の方は、皮膚症状があらわれやすくなる場合がありますので、特に注意が必要です。



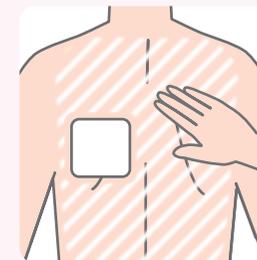
保湿剤には医師の処方が必要なものがあります。
詳しくは医師または薬剤師にご相談ください。

●保湿剤のぬり方

Q 保湿剤はどこにぬればいいですか？

A 新しいお薬を貼った後、貼った場所を避けて保湿剤をぬります。

※お薬がうまく貼れなくなりますので、貼る直前に貼る場所やその周囲にはぬらないでください。



Q 保湿剤はいつぬればいいですか？

A 1日に1～数回(朝、昼、夕方、お風呂上がり、寝る前など)適量をのぼすようにぬってください。入浴後は、できるだけ早くぬると効果的です。

かゆみは皮膚の乾燥とともに出てきます。お風呂上がりやシャワーの後に水滴をふき取り、できるだけ早くぬりましょう。



かゆくなる、赤くなる、かぶれるなどの症状が気になる場合や、長く続く場合は、医師または薬剤師に相談してください。